

第3回 県立高等学校適正化の推進に係る検証委員会 議事概要

1 日時 令和3年8月25日(水) 13時30分～15時00分

2 場所 奈良県文化会館 第1会議室

3 出席者(敬称略)

奈良教育大学名誉教授	重松 敬一
弁護士	三住 忍
県都市教育長協議会会長	上田 陽一
県PTA協議会顧問	筒井 義一

県教育委員会教育長 吉田 育弘

(※ 委員欠席なし)

4 概要

(1)開会

○委員長<あいさつ>

・今回は、検証の主な視点である「策定の時期・方法等について」「高校教育改革について」「教育環境整備について」をテーマに検証を行っていく。

(2)協議

○事務局より<資料に基づき説明>

○委員より<主な意見>

・計画策定に係る時期等に関わり、学習指導要領もほぼ10年毎に改訂が行われているが、子どもの減少、社会の動き、世界との関係等について押さえながら、現在の策定の検証も含めて、約5年後を目途に、内部の検討、次に外部の有識者の意見を取り入れながら、情報公開や意見聴取を実施する等のスパンをモデルに、計画を検証するのがよいのではないか。

・「奈良の学び推進プラン」の中でも改革の方向性として示されているが、各高等学校において特色をもたせた中期計画、スクールミッションの方向性等を積極的に情報公開していくことが必要である。その情報を、中学生とその保護者に出来るだけわかりやすく、すばやく伝えてもらいたい。

・今後も少子化の問題があり、人数のシミュレーションから、学校数をどれだけ減らすのかという課題が将来も必ず出てくる。大まかなビジョンを出していただき、県民の意見を聴いてもらうことが大切だ。

・生徒数減少のシミュレーションを県教育委員会だけがもっているのではなく、できるだけ確かな情報を保護者を含む県民と共有すること大切だ。

- ・適正化と耐震化は基本的には別の問題だが、今回重なってしまった。今後、校舎の長寿命化についても適正化が必要な地域が出てくると考えられるので、問題を整理し、計画を立て、公表していくことが大事だ。
- ・適正なクラス数の検討だけでなく、積極的な施策として教室自体を子どもたちがもっと学びやすいレイアウトにする等、学びのための環境デザインを検討することはどうか。
- ・小中学校ではICTの整備により、パソコンを置くには机が小さいと感じている。教室の大きさや、1クラスの人数等、GIGAスクール構想を進める中で、高等学校においても教育環境を考えていただきたい。
- ・少子化が進む中、子どもの少ないところでは高等学校は必要ないとの考え方もあるが、小中学校同様に地域と連携した学校として、コミュニティ・スクールの進捗と、高等学校の地域性をしっかりと考えていく必要がある。
- ・中学生が方向性のある程度決めて普通科を選択するとなると、各高等学校が魅力をもっと発信する必要がある。文部科学省も普通科と普通教育の区別をし、普通教育の意義をもう一度考え、普通教育の特色化を図るという流れになっている。
- ・各高等学校が、どんな自己実現ができるのかを含めて情報提供できるようにするために、一番身近なものがホームページだ。ホームページで学校の特色や改革の方向性等を情報提供するべきである。
- ・高等学校卒業後に就職したい子どもに対して、高等学校がどんな特色をもち、どんな技術を学べ、どんな企業とつながりがある等も、中学生段階で知ることができるよう情報提供していただきたい。
- ・子どもたちが将来に対する力を付けることができるように、入試の見直しや特色化の推進等、子どもたちの学習指導に有効に働くような高等学校の改革が求められている。
- ・ICT環境が整備され、学びの共同体として協働的な学びを更に進め、教科の学びにも活用しようという動きがあるが、子どもや保護者のニーズに応えるような学習環境を提供できるように、学校も、教員も、あらかじめ準備をしておくべきである。
- ・高等学校が、せっかくよい取組をしたり、将来に対する可能性を広げたりしていても、なかなか伝わらない。これからの時代は、学校が一生懸命やっていることを伝えていかなければならない。
- ・高校入試に関わっても検討が必要ではないか。また、学校の状況について受験生や県民のみなさんに情報共有が必要である。地域の方とコミュニケーションができるような環境づくりも必要になってくる。

(3)閉会

○事務局より

- ・次回開催等について事務連絡